

2024 年度 シラバス

科目名	単位数	担当教員
行動障害臨床特論 (R6 認定通信)	4 単位	西永 堅
テキスト (1) 英国行動障害支援協会編・清水直治監訳 (2015), 『行動障害の理解と適切行動支援』, ジアース教育新社 ISBN-10:4863713169 (2) 西永堅 (2020), 『子どもの発達障害とソーシャルスキルトレーニングのコツがわかる本』, ソシム ISBN-10:4802612931		
科目の概要 発達障害は、言語や読み書き計算などの認知発達の遅れを特徴とする。それらの発達が遅れると、社会性の遅れも同時に見られることになり、また、適切な行動を獲得していかないと、コミュニケーション機能を持つ「問題行動」を誤学習することが予想され、その結果、強度行動障害と呼ばれる状態にもなりえる。「問題行動」を誤学習させず、適切な行動やスキルを学習させていくことを目指していくことは、障害のあるなしに関わらず、重要なことである。本科目では、応用行動分析学に基づいた指導法を学ぶことによって、発達障害のある人達への合理的な教育支援方法を修得していくことを目指している。		

I 科目の目的・ねらい

1. 集中する、がんばるなどの精神論的なアプローチではなく、合理的な方法で共生社会・インクルージョン社会を目指すために、エビデンスに基づいた指導法を学ぶ。
2. さまざまな障害を客観的に理解し、行動やスキルの獲得を目指す指導法を学ぶ。
3. 機能分析などのアセスメント技術を修得し、行動障害に対する合理的な支援方法を修得する。

II 授業計画と評価

1. エビデンス・ベースドの理念を学ぶ (第1回~3回相当)

応用行動分析学では、「自閉症」という用語は何も説明していないと考える。つまり、「自閉症」という一つの語よりも、具体的に、特定の行動の頻度が高かったり、特定の行動の頻度が低いといった行動レベルで観察していくことを重要視し、それらの行動を変容していくことを目指している。ADHD だから多動ではなく、多動だから ADHD と診断されていることを理解する。

第1回 自閉症・自閉スペクトラム症について

第2回 行動分析学の基礎について

第3回 行動分析の視点からの自閉スペクトラム症について

2. 機能分析を学ぶ (第4回~8回相当)

上記のように応用行動分析学では、問題行動の理由として障害名をあげない。かならず、その問題行動は、何らかの結果事象によって維持されていると考える。先行刺激と結果事象を分析することにより問題行動を減少させ、適切な代替行動を増やすことにより、非嫌悪的アプローチでさまざまなニーズのある子どもたちに対してインクルージョンを目指した教育を行うことができる

ことを学ぶ。

第4回 問題行動の捉え方

第5回 機能分析の基礎

第6回 先行刺激の分析

第7回 結果事象(後続刺激)の分析

第8回 代替行動の形成について

3. 結果のまとめ方を学ぶ(第9回~11回相当)

行動の記録は応用行動分析学においてとても重要なことである。応用行動分析学は、従来から行動の測定方法を研究してきた。それらを学ぶことにより、設定した行動目標の妥当性を検討でき、より科学的なアプローチを行うことができる。

第9回 行動の記録について

第10回 行動目標の設定

第11回 エビデンスにもとづいた結果のまとめ方

4. 言語発達・社会性の発達の支援を学ぶ(第12回~15回相当)

自閉症などの発達障害がある子どもたちに限らず、言語の発達は対人関係や社会性を学ぶことにおいても最も重要なことであると考えられる。応用行動分析学の立場から言語発達を学び、言語発達の支援を学ぶことが重要である。

第12回 言語発達の基礎

第13回 応用行動分析学の視点からの言語発達

第14回 発達障害がある子どもに対する言語発達支援

第15回 言語の発達と社会性の発達について ソーシャルスキルトレーニングについて

5. 科目修得試験レポート作成ならびに、スクーリングの内容を通じた理解を試す試験を行う。

評価については、レポート50%、科目修得試験50%の割合で行う。

III 参考文献

- (1) Mickey Keenan (原著)・Karola Dillenburger (原著)・Ken P. Kerr (原著)・清水直治 監訳(2005),『自閉症児の親を療育者にする教育—応用行動分析学による英国の実践と成果』, 二瓶社 ISBN-10:4861080274
- (2) 西永 堅(2017),『子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本』, 日本実業出版社 ISBN-10:4534054688